

生徒一人一人が主体的に学ぶための学習指導の工夫 ～思考ツールを用いた学び合い学習を通して～

糸満市立潮平中学校教諭 新垣光史

I テーマ設定の理由

21世紀の現代社会は、急速な少子高齢問題、グローバル化等、目まぐるしく変化する予測困難な時代になっている。また、ICT等の急速な発展に伴い、様々な情報を容易に入手できるようになり便利になった反面、情報が氾濫している。このような世の中をより良く生きていくためには、世の中の状況に関心を持ち、様々な情報の中から必要な情報を自分で判断し獲得していく力や物事を多面的・多角的に考察し、事実を正確に捉え、適切に表現する力が必要である。また、社会との関わりや世界情勢を意識しながら、課題を追求したり、解決しようとする力を育成することも必要である。

中学校学習指導要領解説社会編(以下解説社会編)では、「よりよい社会を目指して持続可能な社会を形成するという観点から、私たちがよりよい社会を築いていくために解決すべき課題を探求させ、自分の考えをまとめさせる。」ことが明示されている。また、解説社会編公民的分野の目標に「(前略)様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。」そして、これらの力を育むには、「身近な地域の生活や我が国の取組との関連性に注目させ、世界的な視野と地域的な視点に立って探求させること」とある。そのために、国立教育政策研究所は「様々な解決に向けて一人一人が自ら学び判断し自分の考えを持って、他者と話し合い、考えを比較吟味して統合し、よりよい解を見いだす力、更に新しい知識を作り出し、次の問いを見付けるような力」を育む必要があると示している。そこで、生徒が課題意識を持って物事を深く考え、情報を収集・選択し、適切に判断して解決したり、新たな発見(気づき)を生み出すような授業づくりの工夫が必要だと考える。

これまでの授業実践を振り返ると、教師主導の知識習得に重点を置いた授業展開が多く、生徒主体で情報を収集したり、習得した知識等を活用して、物事を深く考えさせたりする場面が少なかった。また、社会との関わりや世界情勢を意識して課題について自分の考えを述べたり、話し合ったりする場面が少なかったため、生徒に主体的な学びを育むことができていなかった。

そこで、本研究では、思考ツールを用いた学び合い学習を取り入れ、思考を可視化・整理して自分の考えを述べたり、他者の考えや意見を聞くことを通して、自分の考えを多面的・多角的に捉えさせ、生徒一人一人に主体的な学びを育む。そして、学び合い学習で得たことや考えたことを基に自分の考えを積極的に表現できるようにする。

以上のことから、学び合い学習に思考ツールを用いることで、生徒一人一人が主体的に学ぶようになると考え、本テーマを設定した。

II 研究仮説と検証計画

1 研究仮説

社会科の学習において、以下のような学習指導の工夫を行うことで、生徒一人一人が主体的に学ぶことができるであろう。

- (1) 思考ツールを用いた学び合い学習を行えば、生徒が思考を可視化・整理することができ、自分の考えを積極的に述べるようになるであろう。
- (2) 思考ツールを基に学び合いを行えば、他者の考えに触れることを通して、自分の考えを多面的・多角的に捉えることができるようになり、主体的な学びを育むことができるであろう。

2 検証計画

事前調査のアンケートや先行授業等から、生徒の実態調査・分析・把握を行う。それを基に、思考ツールを活用した学び合い学習の指導方法について研究を進める。検証授業は7時間程度行う。

検証授業では、授業観察や思考ツールの記述から生徒のイメージや思考が可視化・整理されているかどうかを見取る。さらに、授業後の振り返りシートや感想等から、学び合い学習を通して、生徒が自分の考えを多面的・多角的に捉えることで思考を深め、主体的に学ぶことができたかどうかを分析する。

検証終了の事前・事後にアンケートを実施し、検証前後の比較から本研究の有効性を検証する。

検証授業の対象：潮平中学校3年2組(33名)		
	検証の観点	検証の方法
① 検証授業 3学年 11時間 単元	(1)思考ツールを活用した学び合い学習を通して、思考の可視化・整理を行うことで、自分の考えを積極的に述べるようになったか。 (2)思考ツールを基にした話し合い活動を通して、他者の考えに触れることで、自分の考えを多面的・多角的に捉えるようになったか。	授業観察 ワークシート、付箋紙 発表など 自己評価カード
② 事前・事後の調査	「社会科の授業に関するアンケート」 実施時期：検証授業前（12月） 検証授業後（1月）	アンケートの比較・分析
思考ツールを用いて学び合い学習の指導方法を工夫したことは、生徒一人一人に主体的な学びを育むことに有効であったか。		①②の検証結果のまとめ

Ⅲ 研究内容

1 生徒一人一人が主体的に学ぶための学習指導の工夫について

(1) 主体的な学びとは

主体的とは「自分自身の意志や判断に基づいて行動すること『国語辞典(三省堂)』」とある。また、小原(2016)は、中学校社会科における主体的な学習とは「生徒自身が主体的に発見あるいは選択した現代社会の課題や問題を取り上げ、意見や考えの異なる他者と協働しながら、それらの原因や解決策を考えながら、よりよい未来社会の実現を目指して行われる学習」と定義している。

よって、本研究において、主体的な学びとは、社会の出来事や将来における諸課題に積極的に向き合い、自分事として物事を捉えたり、思考したり、他者と意見を述べ合う姿のことだと考える。

(2) 社会科における主体的な学びを育むための工夫

小原(2016)は、社会科学習の主体性について、「生徒が主体的・協働的な活動をとおして学び合っていくような学習となっていることが必要」と述べている。つまり、社会科の学習の中で、現代社会の問題や身近な問題を生徒同士が話し合ったり、意見や考えを交流したりしながら、学び合う学習活動が重要だと捉える。学び合い学習を通して、社会の出来事を身近に感じ、「なぜだろう」「どうして」などの疑問を持ち、その「解決策」等について考え、判断し、自分事として捉えたり、思考したりすることだと考える。また、様々な人の見方・考え方に触れることにより、自分の考えを多面的・多角的に捉えることで、思考を深め、主体的に学ぶようになると考える。

よって、本研究では、思考ツールを用いた学び合い学習を通して、生徒一人一人に主体的な学びを育むための学習指導を工夫する。

2 思考ツールを用いた学び合い学習について

(1) 思考ツールとは

田村(2015)は、「思考ツールを活用すれば、これまで指導しにくかった『整理・分析』場面においても、子どもが主体的に学習活動に取り組み、収集した情報を比較、分類、関連づけなどして整理・分析していく授業を実現することができる。」と述べている。また、黒上(2012)は、授業の中に思考ツールを取り入れることで、「子どもたちは正しい理解に基づき整理された意見を述べ、話し合いを深めることができるようになる」と述べている。つまり、思考ツールは、頭の中にある思考やイメージを可視化・整理することができ、課題に対する個々の捉え方を他者にも自分自身にもわかりやすくしてくれる。そして、他者の考えに触れることを通して、自分の考えを多面的・多角的に捉えることで、自分の考えを他者へ伝えやすくなり活発に話し合うことができる。さらに、自分の考えを再構築し、思考を深めさせることができる。

本研究では、思考ツールを用いた学び合い学習を通して、生徒一人一人に主体的な学びを育てていく。

(2) 思考ツールを活用した学び合い学習の流れ

図1は、本研究における思考ツールを取り入れた学び合い学習の流れである。思考ツールを活用して、頭の中にある思考やイメージを可視化・整理させて積極的に自分の意見を述べさせる。さらに、他者の考えに触れることを通して自分の考えを多面的・多角的に捉え、自分の考えを再構築させることで思考を深める。思考ツールを活用した学び合い学習により、他者との意見交流を活発に行わせ、生徒が主体的に学ぶようにする。

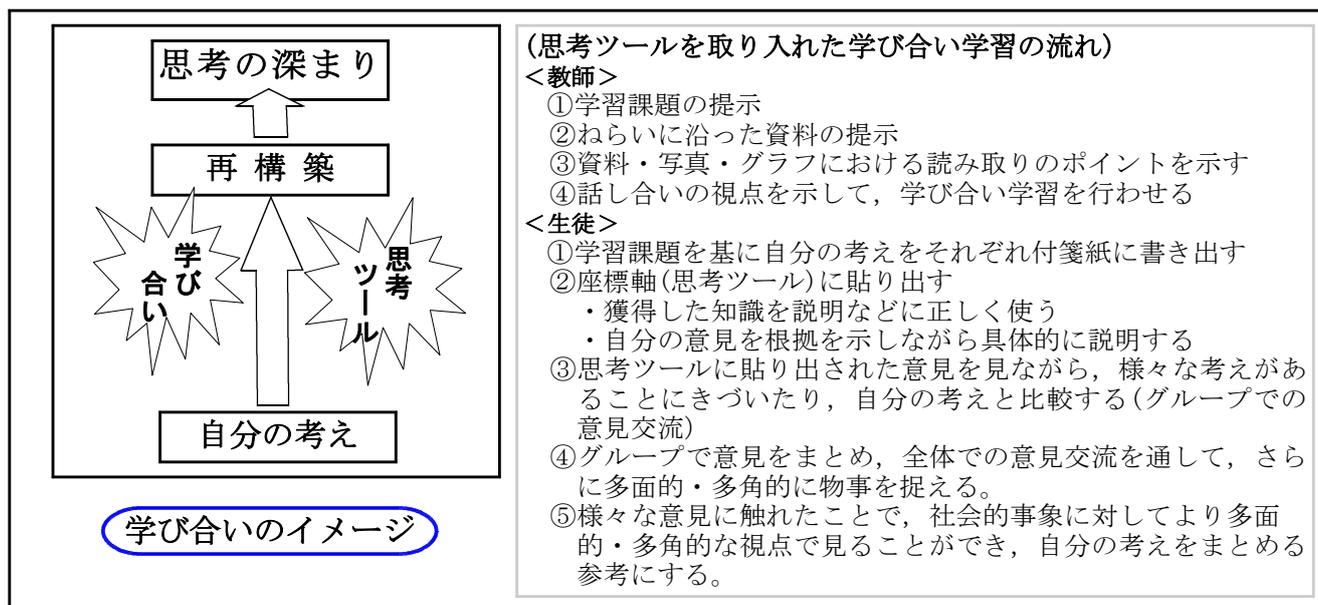


図1 思考ツールを活用した学び合いの学習の流れ

IV 授業実践

1 単元名 第5章 地球社会と私たち

2 単元設定の理由

(1) 教材観

本単元は、地理的分野と歴史的分野との関連を図りながら扱うことができる教材であり、社会科学学習の総括的な単元である。国際社会における平和や文化等の諸問題や国際社会における我が国の役割等について考え、世界的な視野で探究することができる教材である。また、沖縄の食文化や観光などの地域の今日的課題や現状について、地域的な視点で探究することができる教材である。

そこで、今日的課題に対して、既習事項を活用しながら、他者との意見交流を積極的に行わせ、自分の考えを多面的・多角的に捉えたり、様々な社会的事象に対する価値判断を通して、21世紀のより良い社会の実現をめざすための、我が国の役割について考えさせる。

本時で扱う「文化の多様性の尊重」では、世界や日本または沖縄の食文化、民族、宗教等、文化の多様性の尊重について積極的に意見交流をさせ、主体的な学びを育む。

(2) 生徒観

本学級は、ほとんどの生徒が社会的事象に対して興味・関心をもち、調べたり・まとめたりする等、課題に積極的に取り組むことができる。しかし、分かった事や疑問に思った事を、文章にしたり、相手に伝えたりすることが苦手である。また、発表や話し合い活動になると、自分の考えや意見を上手く伝えることができなかつたり、自分の意見を積極的に発言できない生徒がいる。

検証前に実施したアンケートによると、90%以上の生徒が授業で理解したことを文章にしたり、まとめることに対して苦手意識を持っていることが分かる。また、授業を通して出てきた疑問を自分で追求したり、問題意識を持って物事を考える等、主体的に学ぶことに課題がある。

そこで、本研究では、思考ツールを用いた学び合い学習の指導方法を工夫し、生徒の思考を可視化・整理して自分の考えを述べさせたり、他者の考えや意見を聞くことを通して、自分の考えを多面的・多角的に捉えさせ、生徒一人一人に主体的な学びを育みたい。

(3) 指導観

学習指導要領・公民的分野の目標に、「現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる。」とある。そのことを踏まえ、本単元では、単元のゴールを「21世紀のより良い社会の実現のための我が国の役割について考えさせる」ことを目指し、生徒一人一人に主体的な学びを育んでいく。

そのために、以下の指導の工夫を行う。

【指導の工夫】

- ①単元の目標（ゴール）を明確にし、生徒が見通しを持って学習できるようにする。
- ②第1節と第2節を関連づけ、習得した知識を活用して、「国際社会の抱える様々な諸問題」について考えさせる。
- ③単元目標が達成できるように、ペア学習・グループ学習等、学習形態を工夫する。
- ④生徒に主体的な学びを育むために、学び合い学習に思考ツールを取り入れて、話し合いを行わせる。
- ⑤思考ツールを用いた学び合い学習を通して、生徒の思考を可視化・整理させ、自分の考えを多面的・多角的に捉えることで、思考を深める。
- ⑥グループで話し合ったことを全体で発表させ、意見交流を通して、自分の考えを積極的に表現できるようにする。
- ⑦意見交流を基に深まった自分の意見を、授業の振り返りでまとめさせるようにする。

3 単元の指導目標

(1) 単元の指導目標

国際社会に対する理解を深めさせ、国際社会における我が国の役割について考えさせるとともに、人類の一員としてよりよい社会を築いていくために解決しなければならない様々な課題について探究させ、自分の考えをまとめさせる。

(2) 評価規準

社会的現象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的現象についての知識・理解
① 持続可能な社会に対する関心を高め、それを形成するために解決すべき課題について、積極的に自分の考えや意見を述べようとしている。	① 身近な地域の生活や我が国との関連性に着目し、持続可能な社会を形成するために解決すべき課題を見いだしている。 ② 社会科で習得した知識や技能に基づいて、解決すべき課題について、多面的・多角的に考察し、思考の過程や結果を適切に論述したりしている。	① 持続可能な社会を形成するために解決すべき課題に対する資料を適切に選択し、的確に読み取り、まとめている。	① 国際社会における様々な諸問題を解決することが、持続可能な社会を形成するための基礎となることを理解し、その知識を身に付けている。

(3) 単元の指導計画と評価の観点

※【関】…関心, 意欲, 態度 【思】…思考, 判断, 表現 【技】…技能 【知】…知識, 理解

	学習内容・学習課題(■)	主な学習活動	【評価の観点】 ◆検証方法 (思考ツール)
1	◇国際社会における国家 ・国家について考える ・領域について範囲を確認する。 ・排他的経済水域の意義について考える。	本単元についての授業の説明をする。 ○国家について考える。 ・領域(領土, 領海, 領空), 排他的経済水域について知る。 ・映像を見て, 「沖ノ鳥島がなかったとしたら・・・」について個人または, ペアで考える。 ・資料を見て, 国旗と国歌の意義を考える。 ・国際社会における守るべきルールとしての国際法や, 慣習法について知る。 ・学習の振り返り	【思】国際協調を築くための話し合いをしているか。 【知】日本の領域と排他的経済水域について, 地理的分野や歴史的分野の学習内容を踏まえて理解しているか。 ◆ワークシート 授業観察
2	◇国際連合の仕組みと役割 ・国際連合の目的 ・仕組みと役割を知る。 ■日本が国際連合の常任理事国入りした時, 日本が世界に果たすべき役割について考える。	○国際連合について概観する(プレゼンテーション, ワークシート) ・常任理事国と非常任理事国について考える。 ○日本が常任理事国入りした時の役割について ・座標軸を用いて, 日本の役割について話し合う。(学び合い活動) ・グループで話し合った内容をまとめ, 全体で共有する。 ・学習の振り返り。	【思】国際連合の課題について, 多面的・多角的に考察し, 話し合っている。 【知】国際連合の目的や組織の活動について理解しているか。 ◆(座標軸), ワークシート
3	◇地域主義の動き ・地域主義の強まりを知る ・T P Pの目的や今後の日本の動向について	○E U発足の経緯と目的について説明する。 ・E U R O導入に対する利点と問題点について。 ○日本はT P Pに参加すべきか。 ・世界の地域主義の動きを知る。 ・日本の関連するA P E Cなどを確認する。 ・T P Pなど, 今後の動きに関して新聞記事を活用して読み取らせ, 発表させる。 ・学習の振り返り	【思】統計資料の比較や新聞記事を読み取り, 分かりやすく表現している。 【知】世界の動きと日本との関わりを理解している。 ◆ワークシート
4	◇新興国の台頭と経済格差 ・グローバル化の進展 ・国際関係の在り方について	○昨今の国際関係のグローバル化と相互依存について把握する。 ○どのような関係づくりをすべきか考える。 ・南北間の経済格差について考える。 ・新興国の経済成長について知る。 ・新興国の発展に伴い, 発言力も増し, G 8からG 2 0のサミット開催が増えてきた理由について話し合い発表する。(学び合い学習) ・学習の振り返り	【関】国際関係の変化を積極的に調べたり, 話し合ったりしている。 【技】国際関係の変化について, 資料から読み取り, 図表などにまとめることができる。 ◆ワークシート
5	◇地球環境問題 ・現状把握 ・危機的な地球環境 ・国際社会の取り組み ・地球環境問題の解決に向けて ■地球温暖化対策について日本が果たすべき役割について考えよう。	○地球環境問題の現状を把握する。(資料活用) ○地球環境問題の解決策を考える。 ・座標軸を用いて, 日本が果たすべき役割について話し合う。(学び合い学習) ・日常生活で取り組めることを考える。(個人) ・お互いの考えを述べ合う(グループ) ・グループで地球環境問題の解決策を1~2点考える。 ・全体で共有する。 ・学習の振り返り。	【関】地球環境問題の解決に向けて, 意欲的に追求し, 考えている。 【思】温室効果ガスの排出削減をめぐる議論について, 多面的・多角的に考察し, 表現している。 ◆(座標軸), ワークシート

6	<p>◇資源・エネルギー問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状把握 ・グラフ，資料の読み取り ・日本のエネルギー事情を知る ・エネルギー活用の在り方について <p>■将来，エネルギーの活用の方法が制限されるとしたらあなたはどのようにしますか。</p>	<p>○世界のエネルギー事情の課題を把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフや資料を基に読み取り，国別にまとめる。(学び合い学習) <p>○今後のエネルギー活用の在り方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進国と発展途上国の相違点を基に話し合う。 ・領土問題，中国・韓国等との経済や政治的影響について話し合う。 ・グループで話し合った内容をまとめ，全体で共有する。 ・学習の振り返り。 	<p>【関】日本のエネルギー政策について意欲的に考えたり話し合ったりしている。</p> <p>【技】資料を的確に読み取り，話し合い活動に生かしている。</p> <p>【思】日本や世界の現状を知り，比較を踏まえて多面的・多角的に考察し，適切に表現している。</p> <p>◆(マトリックス)，ワークシート</p>
7	<p>◇貧困問題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状把握 ・貧困問題の解決に向けて <p>■貧困問題の解決に向けて「最優先課題」を見つけその解決策を考えよう。</p>	<p>○世界の貧困問題の現状について把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口増加，食料問題(飢餓)，水問題，児童労働，女性差別などの状況把握。(資料活用) <p>○貧困問題の解決に向けて考えよう。(グループ活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で私が取り組めることを考える。(個人) ・お互いの考えを述べ合う(グループ) ・グループで貧困問題の解決策を1～2点考える。 ・全体で共有する。 ・学習の振り返り。 	<p>【関】貧困問題等に関心を持ち，自分の関わりについて意欲的に考えている。</p> <p>【技】貧困の状況のイメージを広げ，複数を関連づけたりしながら原因や解決策を図などにわかりやすくまとめている。</p> <p>◆(ウェビングマップ)(ランキング)ワークシート</p>
8	<p>◇新しい戦争</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状把握 ・平和な世界を作るにはどうしたらいいか <p>■日本は難民を受け入れるべきか，否か。</p>	<p>○近年の争いの特徴を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ，争うのか。 ・宗教，貧困が影響しているのか。 ・テロリズムについて。 <p>○平和な世界に向けて何をしたらいいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座標軸を使って難民を受け入れる事について話し合う。(学び合い学習) ・お互いの考えを述べ合う(グループ) ・難民が出てこない国際社会を作る必要性 ・学習の振り返り 	<p>【関】新たな地域紛争等について関心を持ち，意欲的に追究している。</p> <p>【思】世界各地でテロリズムや地域紛争が発生している原因について，多面的・多角的に考察している。</p> <p>◆(座標軸)，ワークシート</p>
9 (本時)	<p>◇文化の多様性の尊重</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化と画一化 ・宗教や民族の多様性 <p>■海外からの観光客を，何に気をつけて受け入れるべきか，否か。</p>	<p>○世界の様々な文化の現状について把握する。</p> <p>○文化の多様性の尊重について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・座標軸を用いて，文化の多様性の尊重について考える。(学び合い学習) ・グループで話し合った内容をまとめ，全体で共有する。 ・学習の振り返り 	<p>【関】異なる文化を尊重し共存・共生しようとする態度が見られる。</p> <p>【思】文化の多様性の尊重が世界の平和と人類の福祉の増大につながることにについて，多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>◆(座標軸)，ワークシート</p>
10	<p>◇日本の外交の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状把握 ・近隣諸国との関係を考える ・領土問題について <p>■領土問題を解決するためにどのようなことをしていけばよいか。</p>	<p>○日本の外交に対する取り組みを知る。(資料活用)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平和主義外交の実態について知る <p>○領土問題の解決に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣諸国との歴史的背景も絡めて資料から読み取り，まとめる。(ペア学習) ・震災時に諸外国に援助された事例を考える。 ・領土を守り続ける意味を考える。(グループ) ・解決すべき問題(領土問題や，拉致問題など) ・学習の振り返り 	<p>【思】近隣諸国との関係の課題に課題について，多面的・多角的に考察している。</p> <p>【知】日本外交の柱である平和主義と国際貢献，領土問題の現状を理解している。</p> <p>◆(座標軸)，ワークシート</p>
11	<p>◇より良い社会を実現するには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習の振り返り ・メッセージを書く <p>■21世紀をより良く生きていくために未来に向けてメッセージを書こう。</p>	<p>○これまでの学習を振り返り，学んできた出来事をランキングしていく。(学び合い学習)</p> <p>○21世紀へのメッセージをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランキング後の他者の意見も参考にしながら，自分の意見を根拠を立ててまとめる。 ・他者に読んでもらう。※5W1Hでまとめる。「こういう事が伝えたいという内容です。」 ・全体発表 ・学習の振り返り 	<p>【関】他者の意見を聞き，自分の課題の解決策の参考にしている。</p> <p>【技】既習事項の資料などを適宜活用して，文章づくりにつなげる。</p> <p>【思】より良い社会の実現に向けて，持続可能な社会を形成するために解決すべき課題の解決策を対立と合意，効率と公正などの観点から考察している。</p> <p>◆(ランキング)メッセージカード</p>

4 本時の展開

(1) 本時のねらい

持続可能な社会を形成するという観点から、文化の多様性に気づき、異文化理解の意義を考えながら、「多文化共生」について考える。また、身近な地域の生活や我が国との関連性に着目させ、課題について自分の考えを述べる。

(2) 授業仮説

- ① 思考ツールを活用することで、自分の意見を可視化・整理し、自分の考えを積極的に述べることができるであろう。
- ② 思考ツールを用いた学び合い学習において、他者の考えに触れることを通して自分の考えを多面的・多角的に捉え、主体的な学びを育むことができるであろう。

(3) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点	評価規準
導入	<p>■活動 ◇教師の発問や指示 ○予想される生徒の反応</p> <p>■写真を見て考える</p> <p>発問1 ◇「この写真から何がわかるかな」 ○服装が変 ○顔(身体)が覆われている ○走りにくそう ◇「陸上の選手の格好って。」 ○普通は・・・ ◇「何で、脱がないのかな。」 ○決まり ○宗教 ○早く走れる</p> <p>発問2 ◇「イスラム教には他にも私たちと違う部分もありますか。」 ○食べ物 ○男女差別問題 etc ◇「この人たちにとっては、これが普通の事なんだね。」 ◇「どうやら、私たちは、何か違うものを見ると(おかしい)(変)と捉えるようなところがありそうだ。」</p>	<p>・写真(ICT機器の活用)</p>  <p>・見方や考え方に何かありそうだ。 ・違いを認める。 ・差別せずに尊重していくためには？</p>	
展開	<p>■本時のめあての確認 「文化の多様性の尊重について考えよう。」</p> <p>発問3</p> <p>■話し合い活動 学習課題：「海外から沖縄への観光客が増加しています。グローバル化が今後ますます進む中で、外国人を受け入れる事が予想されますが、私たちは何に気をつけて受け入れるべきか、否か。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇話し合いの流れ 「学習課題について『メリットとデメリット』に焦点を当て考える。」</p> <ol style="list-style-type: none"> ①各自、自分の考えを付箋紙に書き出す。 ②自分の考えを他者に説明しながら、思考ツールに貼る。 ③思考ツールで自分の考えを可視化・整理する。 ④思考ツールを基に意見交流を行う。 ⑤他者の意見を通して、自分の考えを多面的・多角的に捉え、自分の考えを再構築し、自分の考えを述べる。 ⑥グループの意見をホワイトボードにまとめ、全体で共有する。 </div>	<p>・どのような考え方で、接していくべきか？多様な文化について確認する。</p> <p>・考える視点を示す。(観光客の思い、受け入れる側の思い、共生等)</p> <p>・根拠を述べて、意見を述べさせる。</p> <p>・相手の意見をじっくり聞いて、お互いの意見を伝え合う。</p> 	<p>【思・判・表】 身近な地域の生活や我が国との関連性に着目し、課題について、多面的・多角的に考察し、積極的に自分の考えを述べている。</p>
まとめ	<p>■本時のまとめ</p> <p>・持続可能な社会を形成するという観点から、文化の多様性や異文化理解の意義、身近な生活や日本との関連性等から、学習課題について自分の考えをワークシートにまとめる。</p> <p>10 ■次時へのつながり</p>	<p>・話し合いで学んだこと、考えたことを基に自分の考えをまとめさせ、本時を振り返らせる。</p>	

5 授業仮説の検証

本時の授業仮説については、ワークシートやアンケート等の記述、付箋紙を活用した思考ツールの活用場面、授業観察の様子を基に考察していく。

(1) 思考ツールを活用することで、自他の意見を可視化・整理し、自分の考えを積極的に述べることができたか。

検証授業では、「海外からの観光客を受け入れるか、否か」という学習課題を提示し、「受け入れる際のメリットとデメリット」、「受け入れない場合のメリットとデメリット」を中心にグループで話し合いを進めた。話し合いがスムーズに行えるように、観光客の思い、受け入れる側の思い、共生などを考える視点として提示した。

まず、生徒たちは自分の頭の中にある考えやイメージを付箋紙に書き出し、「なぜそう思ったのか」「その根拠」等、自分の考えや意見について友達に説明しながら思考ツールに付箋紙を貼り出していった。

思考ツールに書き出された内容には、受け入れるメリットとして「お土産が売れる」「経済が豊かになる」「日本の文化が広まる」等の意見がある。一方、デメリットとして「マナーが悪い外国人がいる」「トラブルが起こる」などの意見が出た。また、受け入れないメリットとして「外国人による事件・事故が減る」「治安が悪くならない」を上げ、デメリットに「日本のイメージが悪くなる」「日本が他の国に受け入れられなくなる」などの意見が出た。

さらに、思考ツールに貼り出されていく自他の意見を基に話し合いを進めていくと、受け入れるメリットに「異国文化を理解する」、デメリットに「食材が限られてくる」「日本の食べ物が外国人に合わない可能性がある」「宗教上の違いで食べられないものが出てくる」など、本時のねらいに迫る意見が出てきた。つまり、思考ツールを活用したことで、自分の考えを可視化・整理することができ、自分の思考が明確になり、積極的に意見を述べることができたと考えられる。(図2)

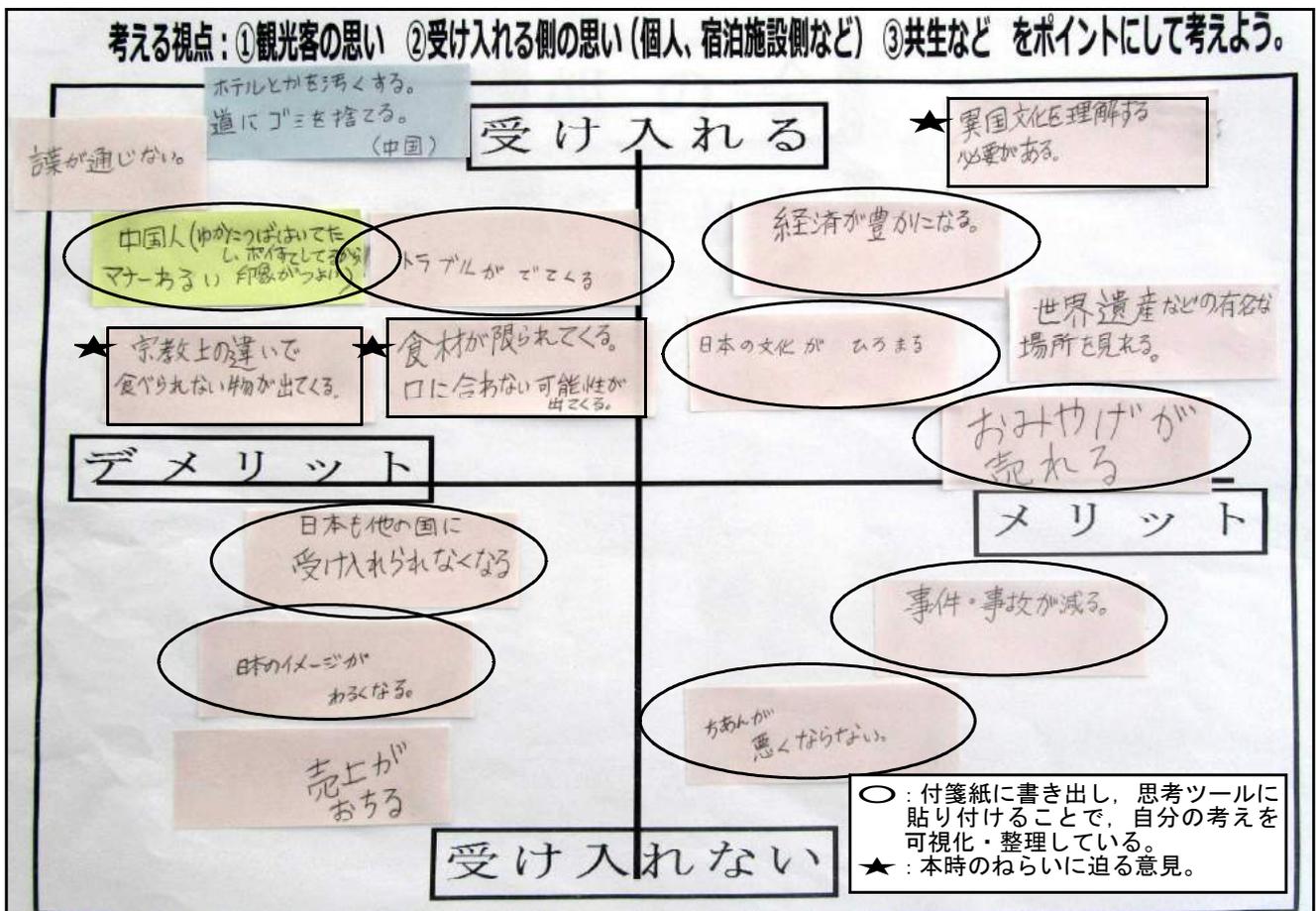


図2 思考ツール(座標軸)

検証前のアンケートでは、グループでの話し合い学習について「色々な意見を聞けるから良い」という意見がある中で、「話し合いが進まない」「意見を言わない人がいる」「自信がなくて意見が言えない」など、自分の意見や考えを述べることに苦手意識がある生徒が60%いたが、検証後のアンケートで、「思考ツールを使うと自分の意見を述べやすいですか」「思考ツールに出された他者の意見を基に話し合いをすると積極的に話し合いができましたか」の問いに対して、それぞれ97%の生徒が「できた・どちらかと言えばできた」と回答している。(図3)

また、授業後の生徒の振り返りシートからも、75%の生徒が「自分の考えをまとめやすくなった」「色々な意見を聞いて考えることができた」と回答している。(資料1)

以上のことから、思考ツールを活用して、学び合いを行うと、自他の意見を可視化・整理することができ、生徒一人一人が自分の考えを積極的に述べることができたと考える。

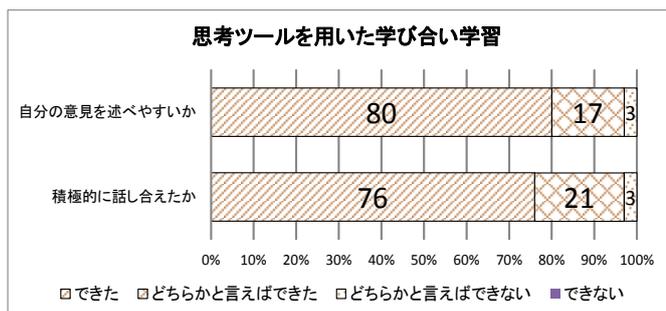
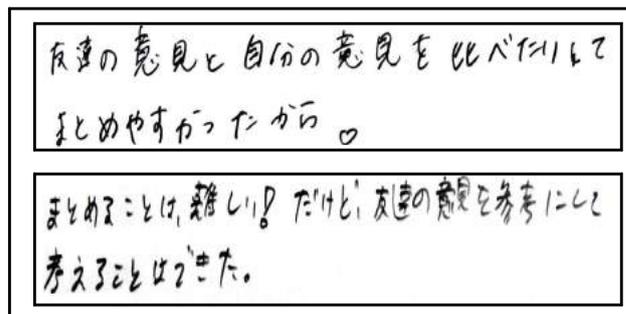


図3 学び合いの自己評価



資料1 生徒の感想(他者との意見交流)

(2) 思考ツールを用いた学び合い学習において、他者の考えに触れることを通して自分の考えを多面的・多角的に捉え、主体的な学びを育むことができたか。

検証後のアンケートにおいて、「学び合い学習を通して、色々な人の考えに触れることで、自分の考えを深めることができましたか」の問いに、すべての生徒が「できた・どちらかと言えばできた」と答えた。(図4)

また、資料2の生徒の記述からも、「自分の意見と他の意見の違いがわかり、とても比べやすくなった」「自分の考えの中に観光地が汚れるという視点がなかった」等があり、学び合い学習で他者の考えに触れたことで、自分の考えを深めることができたことが分かる。その他にも、「他の人の意見を聞く事で様々な方向から物事を考えることが出来た」「質問もでき、話も深まる」などの感想が出たことから、他者の考えに触れたことで、自分の考えを多面的・多角的に捉えることができたと考える。

さらに、授業後の振り返りで、生徒の記述に「相手側の宗教を受け入れても、その国のマナーなどは守ってもらうようにする」「それぞれの文化を理解し、相手

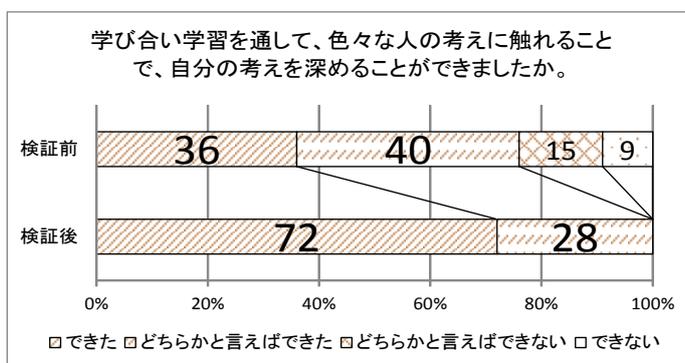
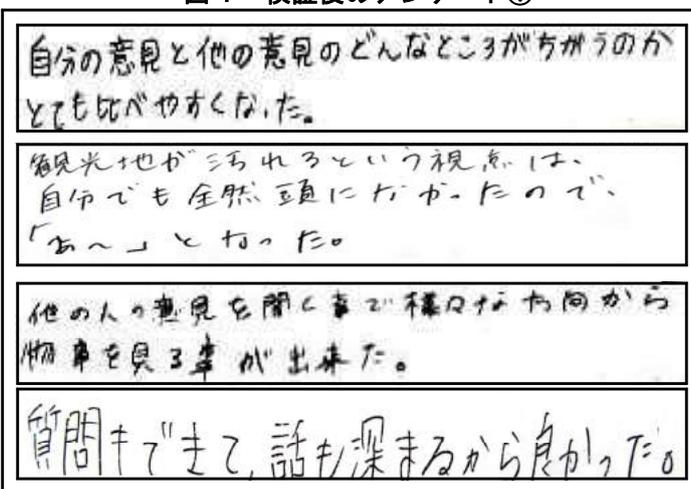
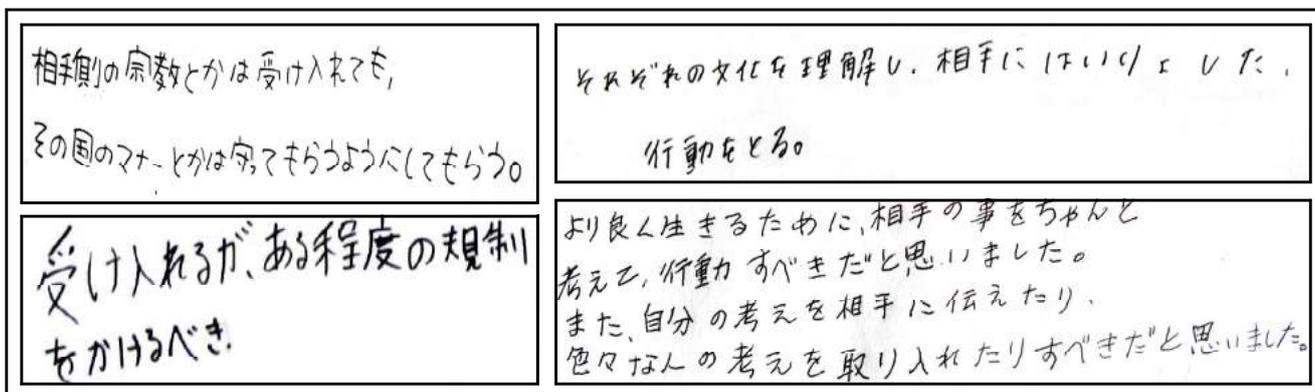


図4 検証後のアンケート①



資料2 生徒の感想(可視化・整理)

に配慮した行動を取る」「受け入れるが、ある程度の規制をかけるべき」「より良く生きるために、相手の事をちゃんと考えて行動すべきだと思いました。また、自分の考えを相手に伝えたり、色々な人の考えを取り入れたりすべきだ」などの意見が出た。つまり、生徒は、「受け入れる」「受け入れない」という表面的な意見にとどまらず、一人一人が自分なりの考えを述べたり、今後を見据えた意見が出ていることから、学び合い学習において、他者の考えに触れたことで自分の考えを多面的・多角的に捉え、生徒一人一人が主体的に学ぶことができ、本時のねらいを達成することができた。(資料3)



資料3 生徒の感想(ねらいに迫る意見)

V 研究の結果と考察

研究の考察は、事前(12月)、事後(1月)のアンケート、毎時間の授業の振り返り、検証授業の授業観察を基におこなう。

1 思考ツールを用いた学び合い学習は、生徒の思考を可視化・整理し、自分の考えを積極的に述べることができたか。

本研究では、思考ツールを取り入れた学び合い学習を行った。話し合う際に、思考ツールを活用して生徒の頭の中にある思考やイメージを可視化・整理させて自分の考えを述べさせた。

検証後のアンケートによると、「思考ツールを基に話し合いをすると話しやすいですか」の問いに、88%の生徒が「話しやすい・どちらかと言えば話しやすい」と答えた。(図5) また、「思考ツールを用いると、積極的に自分の意見を述べることができましたか」の問いに、「述べる事ができた・どちらかと言えば述べる事ができた」と答えた生徒は、検証前は42%だったのに対し、検証後は94%に上昇した。(図6)

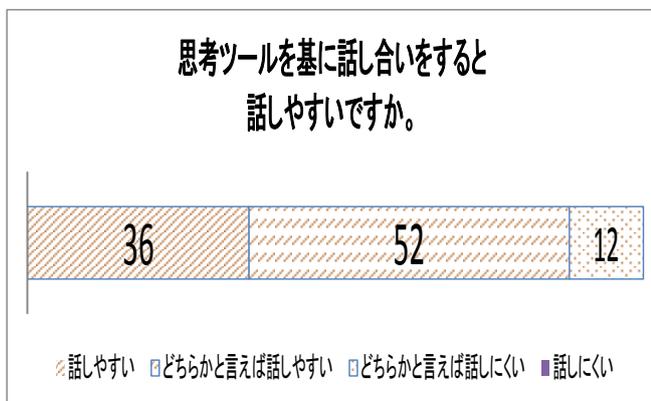


図5 検証後のアンケート②

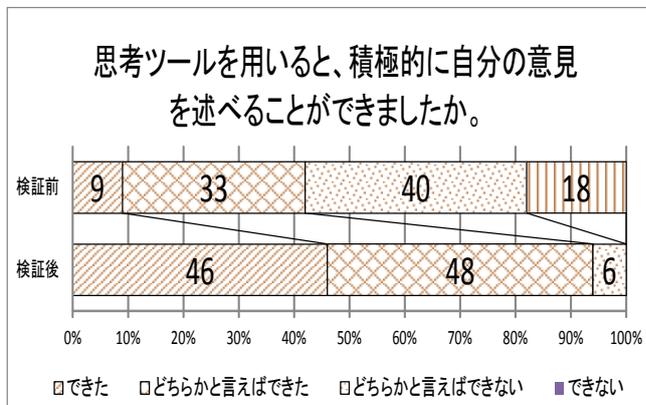
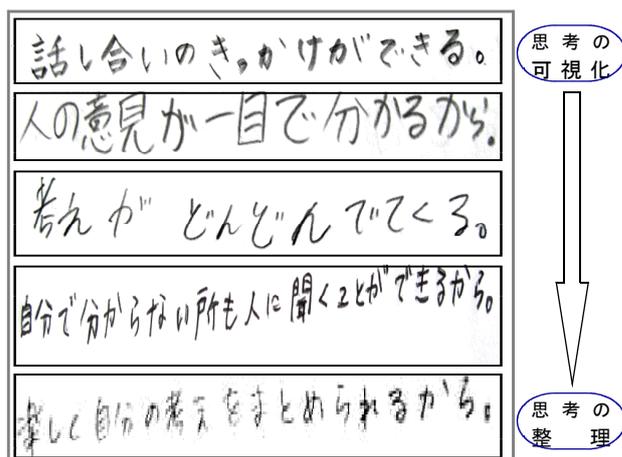


図6 検証後のアンケート③

また、生徒の感想にも、「話し合いのきっかけができる」「人の意見が一目で分かる」「考えがどんどん出てくる」「分からないことが聞ける」「楽しく自分の考えをまとめられる」などがあり、思考ツールを用いた学び合い学習を通して他者の考えに触れたことで、頭の中でイメージしていた考えが可視化されたと考える。

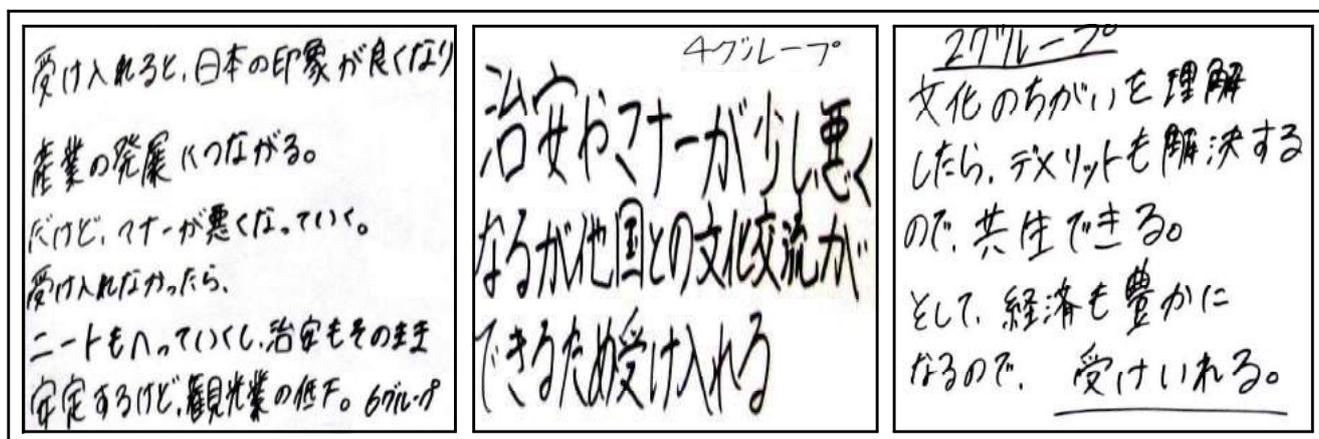
また、話し合いが進むにつれて、可視化された思考が整理されていくことで、検証前より抵抗なく話し合いを進めることができ、生徒一人一人が積極的に自分の意見を述べる事ができたと考えられる。(資料4)



資料4 思考の可視化・整理

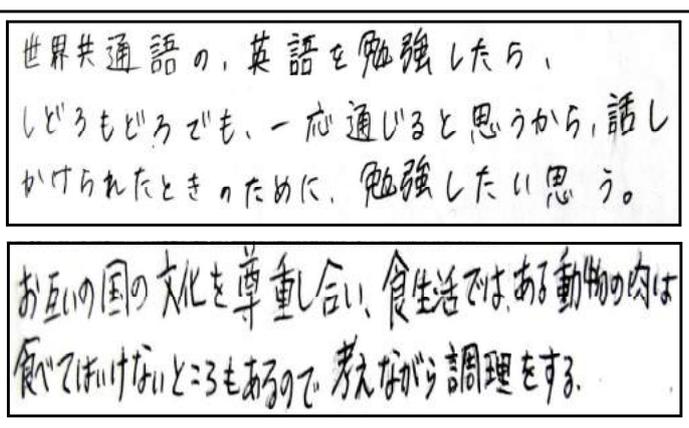
2 思考ツールを基に学び合いを行うことで他者の考えに触れ、自分の考えを多面的・多角的に捉えることができ、主体的な学びを育むことができたか。

図4で示したように、「学び合い学習を通して、色々な人の考えに触れることで、自分の考えを深めることができましたか」の問いに「できた」と答えた生徒が検証前は36%だったのに対し、検証後は72%に上昇した。また、思考ツールを基にした意見交流後の、グループの意見として、「受け入れると、日本の印象が良くなり、産業の発展につながるがマナーが悪くなっていく」「受け入れなかったら治安等安定するけど観光業が低下する」「治安やマナーが少し悪くなるが、他国との文化交流ができるため受け入れる」等の意見が出た。さらに、「文化の違いを理解したら、デメリットも解決するので、共生できる。そして、経済も豊かになるので、受け入れる」という意見は、本時のねらいに迫る「多文化理解」の視点に立った具体的な意見に加えて、その解決策も示されていることは、主体的な学びになっていると考える。つまり、生徒が自分なりの考えを持って、よりよい社会や持続可能な社会の形成についてグループで積極的に話し合うことができたことは、思考ツールは主体的な学びを育むことに有効だと考える。(資料5)その他にも、「受け入れたい気持ちもあるが、デメリットを考えると受け入れられない」というグループや「受け入れないと、日本が受け入れてもらえなくなる」等の意見交流があり、生徒が主体的に学ぶ姿が見られた。このことは、学び合いの中で様々な意見に触れたことで、生徒に新たな気づきがあり、他者の考えと自分の考えを比べたり、別の角度から考えたりすることで、これまでなかなか表現できなかったことが整理され、主体的に学ぶことができたと考えられる。



資料5 ホワイトボードにまとめた感想

授業後に行った振り返りの記述に「世界共通語の英語を勉強したら、しどろもどろでも、一応通じると思うから、話しかけられたときのために、勉強したいと思う。」という意見から、学習課題を自分事として捉えていることが分かる。また、これまで、ほとんど発言をせず、消極的だった生徒も「お互いの文化を尊重し合い、食生活では、動物の肉は食べてはいけないところもあるので考えながら調理をする。」と述べることができた。(資料6)つまり、思考ツールを活用したことで、どの生徒も話し合いに参加しやすくなり、自分なりの考えをアウトプットでき、意欲的に学ぶことができた。以上のことから、思考ツールを基にした学び合いは、①様々な意見に触れることができる、②自分の考えを多面的・多角的に捉えることができる、③思考が明確になる、④積極的に発言できることから、生徒一人一人に主体的な学びを育むことに有効だと考える。



資料6 生徒の振り返りシートの感想

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- (1) 思考ツールは、自他の意見を可視化・整理することに役立ち、生徒一人一人に積極的な話し合いを促すことができた。
- (2) 思考ツールを基に学び合い学習を行ったことで、自分の考えを多面的・多角的に捉えることで、思考を広げたり、深めることができ、生徒一人一人が主体的に学ぶことができた。

2 今後の課題

- (1) 生徒一人一人が、根拠をもって自分の考えや意見を説明する力を育み、より積極的な話し合いができるように工夫する。
- (2) より主体的な学びを育むための思考ツールの選定と効果的な活用を工夫する。

<主な参考文献>

文部科学省 国立教育政策研究所	『中学校学習指導要領解説編 社会編』 『評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校 社会』	日本文教出版	2008年
文部科学省	『言語活動の充実に関する指導事例集 ～思考力、判断力、表現力の育成に向けて～』		2011年 2012年
黒上晴夫、小島亜華里、泰山裕	『シンキングツール ～考えることを教えたい～』	関西大学	2012年
関西大学初等部	『思考ツールを使う授業』		2014年
田村学、黒上晴夫	『こうすれば考える力がつく！中学校思考ツール』	小学館	2014年
田村学	『授業を磨く』	東洋館出版社	2015年
小原友行	『アクティブ・ラーニングを位置づけた 中学校社会科の授業プラン』	明治図書	2016年
国立教育政策研究所	『資質・能力 理論編』	東洋館出版社	2016年